

## 今号の作業

# 電池ボックスカバーを取り付ける



今号では「電池ボックスカバー」を、54号で仮組みしたメインフレームに取り付ける。このパーツは、シートの下に組み込まれる電池ボックスを押さえるためのもので、表面にはツールバッグとシールドバッテリーがモールドされ、スケール感を損なわないよう配慮されている。

### 今号のパーツ



- ①電池ボックスカバー
- ②ビス(Aタイプ)×2  
(※1本は予備)
- ③メタルクリップC×1
- ④4×9mmワッシャー付きビス×4
- ⑤ベースフレーム3×1

※③④⑤は、今回の作業では使用しないので、大切に保管しておこう。

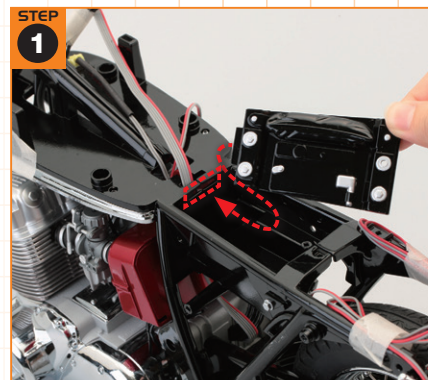
※モデルの設計上、パーツの形状が実車とは異なる場合があります。  
※「組み立てガイド」で紹介しているパーツは実際に付属するパーツと一部仕様異なる場合があります。

### 使用する道具

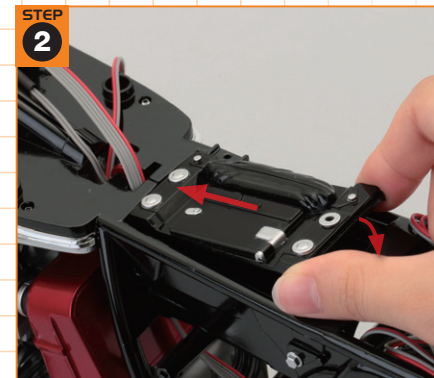
・+(プラス)ドライバー(1番)

### 用意するもの

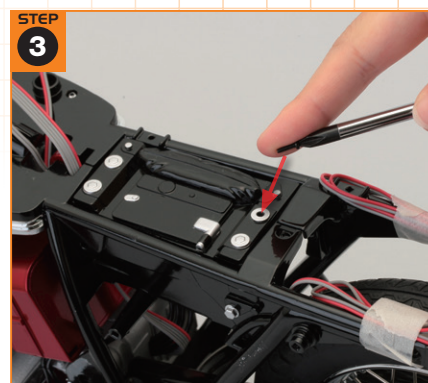
・マスキングテープ  
・メインフレーム(54号で組み立てたもの)



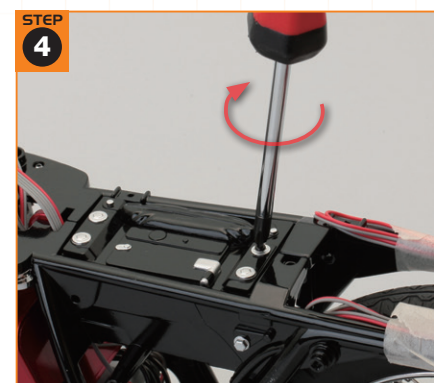
54号で仮組みしたメインフレームを立て、①電池ボックスカバーを写真で示した位置にセットする。



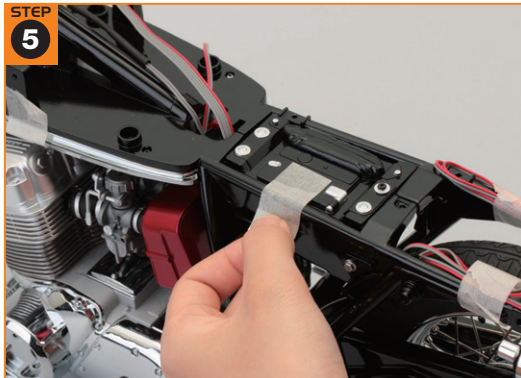
電池ボックスカバーの先端部分をメインフレームのスリット部分に差し込み、そのまま電池ボックスカバーの後部を落とし込む。



②ビス(Aタイプ)を用意し、1番の+(プラス)ドライバー先端にセットしたら、写真のビス穴にセットする

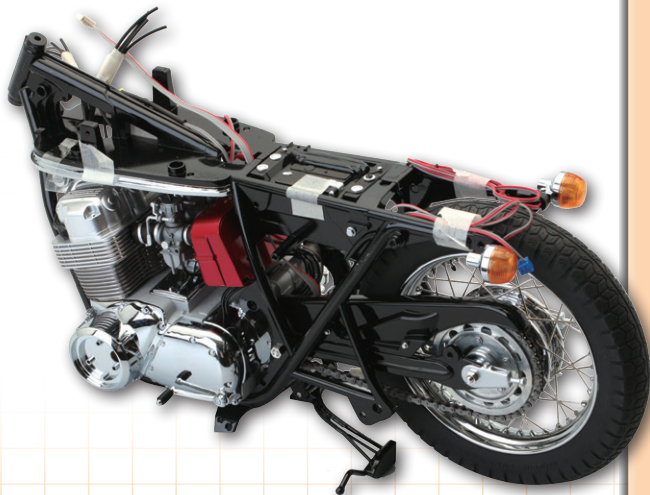


Aタイプのビスをドライバーで真っすぐにねじ込む。なお、このビスは深くねじ込めない(2回転程度まで)ので、無理にねじ込まないように注意する。

STEP  
5

マスキングテープを写真のように貼り付け、電池ボックスカバーを取り外すときの「取っ手」にする。こうすることで、今後の作業がやりやすくなる。

## 今号の完成



これで今回の作業は完了だ。電池ボックスカバーは、その下に組み込まれる電池ボックスに単4型アルカリ乾電池を入れるときに取り外す必要がある。そのため、取り付けに使用するAタイプのビスは「固定用」ではなく、あくまでも「外れないようにすること」が目的なので、ねじ込み過ぎには十分な注意が必要だ。組み立てたメインフレームは、次回の作業に備えて大切に保管しておこう。

## × クランクケースの継ぎ目を目立たなくする方法 ×

エンジン下部のクランクケースは、「左右分割パーツ」のため、どうしても“継ぎ目”ができてしまう。これは塗装済みダイキャストパーツの宿命だ。そこで、比較的簡単な“継ぎ目を目立たなくするテクニック”を紹介しよう。



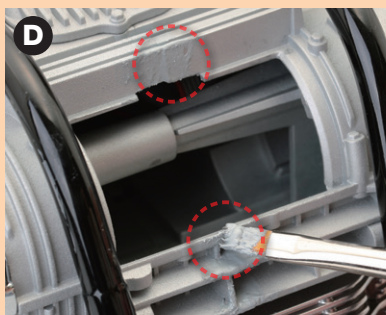
用意するものは、「タミヤパテ」「Mr.カラー うすめ液(※筆の洗浄に使用)」「塗装用の筆」「混色用の小皿」と、「Mr.カラーNo.8・シルバー／No.11・ガルクレー」だ。そのほか、ペーパータオル(毛羽立たないもの)も用意する。



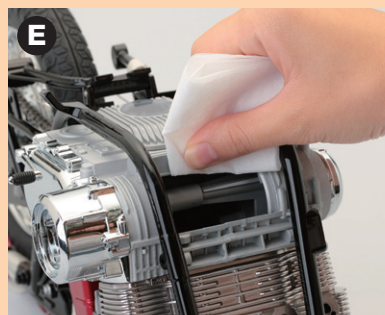
混色用の小皿にタミヤパテを少量取り出し、そこにMr.カラーのガルクレーとシルバーを混ぜる。分量は、タミヤパテを3とした場合、ガルクレーが2、シルバーが1の割合だ。



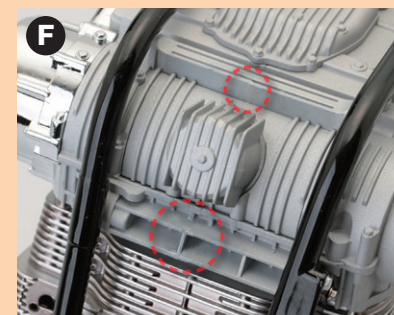
小皿のパテと塗料をしっかりと混ぜ合わせる。このとき、Mr.カラーうすめ液を加えると凝固してしまうので、粘度はMr.カラーの量で調整する。



継ぎ目が目立っている部分に、Cで混ぜた着色パテを筆で塗り付ける。すき間が開いている場合は、すき間を埋めるようにする。



着色パテの表面が半乾きの状態(塗布後、約15分程度)になったら、折り畳んだペーパータオル(ティッシュペーパーは不向き)で強く押え、パテの表面を平らに整形する。



その後、数日放置してパテを完全に乾かす。この作業を、継ぎ目が目立たなくなるまで繰り返すと、写真のように滑らかな表面になる。